

滋賀県・湖南省友好提携30周年記念事業

事業の全体概要

【基本的な考え方】

両県省の30年に亘る交流の歴史を振り返り、今後更なる絆を深める契機とし、両県省の発展に寄与する機会とする。

【30周年事業のテーマ】

両県省の交流の原点である、琵琶湖と洞庭湖に象徴される「環境」をキーワードとし、経済、観光、環境保全等の分野における交流を促進することにより、県内企業の事業展開につなげる。

【記念事業の概要】

1. 技術・経済交流訪問団の派遣（観光交流局・下水道課・琵琶湖環境科学研究センター・琵琶湖博物館）

友好提携30周年を記念して友好代表団（技術・経済交流団）を湖南省に派遣し、現地において各種事業を実施する。

派遣時期：平成25年7月15日（月・祝）～18日（木）

＜予定事業＞

- ・ 汚水処理分野における技術協力プロジェクトの調印
- ・ 環境関連機関・施設・企業等への訪問、意見交換
- ・ 洞庭湖・びわ湖共同環境セミナーの開催
- ・ 現地旅行会社への訪問・セールス
- ・ 歴代海外技術研修員との交流会の実施（研修員受入機関も参加）
- ・ 博物館交流

2. 次世代を担う子どもたちの友好交流の実施（観光交流局・環境政策課・学校教育課）

湖南省の子どもや学校関係者を招待し、学習船「うみのこ」での県内の子どもたちとの交流や農家民宿体験、琵琶湖博物館での環境学習等を行う。

実施時期：平成25年8月6日（火）～11日（日）

来県予定者：湖南省の小中学生10名、政府・教育関係者10名

3. 30周年記念式典等の開催および各種訪問団の受入（観光交流局・森林政策課）

両県省の今後更なる交流の進化を図るため、政府代表団をはじめとする30周年記念訪問団を受入れ関係者が一堂に会する記念式典を開催するとともに、記念行事等を行う。

実施時期：平成25年11月中下旬 ※記念式典は11月19日（火）に開催予定

4. 交流記念誌等の編纂（観光交流局）

30周年を記念して、これまでの交流の歴史を振り返る、交流記念誌等を編纂する。

湖南省友好提携30周年記念事業（琵琶湖環境部所管分）

1. 技術・経済交流訪問団の派遣

(1) 汚水処理分野における技術協力プロジェクトの調印（下水道課）

目的と概要

湖南省において、汚水処理場の運転管理能力の向上と住民の環境意識の向上を目的とした技術協力を、JICA 草の根事業を活用し3年間（平成25～27年度）にわたって実施する。

<JICA「都市汚水処理場運転管理技術と住民の環境意識向上のためのプロジェクト」>

- ①技術者養成プログラムの策定と実施。
- ②汚水処理場の運転管理マニュアルの策定。
- ③住民に対する環境教育のための資料（パンフレット、副読本等）の作成と実施。

<県事業「滋賀県・湖南省汚水処理分野における技術協力プロジェクト」>

・経済面と技術面での交流拡大を目的とし、現地調査と汚水処理技術管理者に対するセミナーを開催。

期待される効果

湖南省との友好関係の発展、経済、技術分野の交流拡大を図りつつ、技術の国内外への普及促進を支援することで、県の保持する汚水処理技術の継承発展と県内関連産業の発展活性化をめざす。

(2) 洞庭湖・びわ湖共同環境セミナー（琵琶湖環境科学研究センター）

目的と概要

湖南省において環境セミナーを開催することで、本県の先進的な取組を海外に向けて発信する国際貢献の場とするとともに、双方の環境問題の現状や環境保全に向けた取り組みを湖南省の方々（特に若い世代）に理解いただくことにより、環境意識の向上、ひいては、今後の湖沼流域の水環境改善に寄与する。

【テーマ】「洞庭湖・びわ湖共同環境セミナー ～湖沼流域の水環境保全を考える～」
（滋賀県・湖南省 共催）

- ①日 時：7月16日（火）14:30～17:30（3時間程度）
- ②場 所：湖南省長沙市内「通程国際大酒店」
- ③人数：200～300名程度

- ④対象者：ア 大学生(全体の4割程度) イ 研究者・技術者 ウ 環境関連企業
エ 湖南省政府関係者 オ 洞庭湖流域市関係者

期待される効果

双方に共通の課題である水環境保全に対して、研究者同士の交流により、湖南省における取り組みの成果や知見を琵琶湖にフィードバックし、今後の取り組みに活かしていく。

また、多くの方に、水に対する本県の思いや取り組みを知り、本県や琵琶湖に関心を持っていただくことで、将来的な環境ビジネスのきっかけとなるほか、観光での来訪にもつながることが期待される。

(3) 博物館交流連携事業（琵琶湖博物館）

目的と概要

琵琶湖博物館の学芸員を湖南省に派遣し、今後の研究交流等の連携を構築し、比較湖沼研究の推進を図る。また、湖南省の洞庭湖と暮らしに関する資料等を収集し、企画展示への出展やリニューアルにおける展示更新に活用するなど、展示の国際化を推進する。

①「湖と人間」にかかわる研究交流の推進

両県省の研究交流を推進し、湖南省の博物館との連携を構築するため、琵琶湖博物館の学芸員4人を派遣する（7月15日(月)～7月21日(日)までの7日間）。

② 博物館の展示にかかわる交流

- ・湖南省の洞庭湖に関わる資料や情報を入手し、平成26年度の企画展示における「琵琶湖と太湖・洞庭湖」の展示資料を入手する。
- ・リニューアルにおいて、「世界の湖沼－洞庭湖」の更新に必要な資料等を入手する。
- ・琵琶湖にかかわる資料・情報を湖南省博物館に提供する。

③ 湖南省における琵琶湖・琵琶湖博物館のPR

- ・湖南省の博物館等でパンフレット等の展示設置などにより、誘客を図る。

④ 洞庭湖・びわ湖共同環境セミナーとの連携

- ・7月15日の「洞庭湖・びわ湖流域共同環境セミナー」において当学芸員による発表をおこなうとともに、セミナー会場での琵琶湖博物館のPRを実施する。

期待される効果

湖南省の博物館との交流連携により、比較湖沼研究や展示の国際化を推進するとともに、琵琶湖博物館のテーマである「湖と人間」の新しい共存関係を紹介することにより、湖南省における琵琶湖や琵琶湖博物館への関心を高め、環境学習や観光での来館につながることを期待される。

2. 次世代を担う子どもたちの友好交流の実施

しが環境学習プログラム体験事業（環境政策課）

目的と概要

本県における体系的な環境学習の一端を湖南省の子どもたちや政府関係者等に体験していただくことにより、湖南省における環境学習や環境保全活動の推進に寄与する。

① 琵琶湖博物館での環境学習（8月8日（木））

- ・琵琶湖博物館の展示解説・見学
- ・湖辺の微小生物とのふれあい観察会
- ・採取した微小生物の三次元立体模型の製作 等

② 森林環境学習「やまのこ」（8月9日（金）午前）

- ・近江富士花緑公園および森林センターでの県内小学生との体験学習
- ・森に親しむ自然観察ウォーキング
- ・丸太切り体験
- ・森の恵みを利用する木工クラフト 等

③ エコ・スクール認定校との交流（8月9日（金）午後）

- ・エコ・スクール認定校生徒や地域のサポーターとの体験学習（水生生物観察等）
- ・エコ・スクール活動の紹介・交流
- ・指導者間の意見交換 等

④ 「うみのこ」体験（8月10日（土））

- ・学習船「うみのこ」でのびわ湖環境学習体験プログラム
（琵琶湖の生物に親しむ『しじみストラップづくり』等）

期待される効果

環境学習プログラムを通して、本県の強みである琵琶湖をはじめとする美しい自然環境等の滋賀の魅力を発信することができ、また、自然体験学習・教育旅行の舞台として、本県をアピールすることができる。

加えて、本県の子どもたちにとっては、普段接することの少ない海外の子どもたちとの交流により、自らの環境活動の価値を見つめ直し、高めていくきっかけとする。

3. 記念式典等の開催および各種訪問団の受入

湖南省友好の森づくり事業（森林政策課）

目的と概要

県立近江富士花緑公園において、「湖南省友好提携30周年記念事業」と位置づける「湖南省友好の森」を整備し、湖南省訪問団と県民等による記念植樹等を実施する。

本県では、これまで、森林・林業関係の湖南省からの研修生や湖南省からの視察団による記念植樹を、近江富士花緑公園周辺で行っており、友好提携30周年を機会に、湖南省訪問団と県民等による記念植樹等一連の式典を行い、さらなる友好交流を深める。

① 事業内容・経費

- ・「湖南省友好の森」整備
森林整備（1.0ha）、苗木等資材費、記念植樹、記念看板設置

② 時期・・・平成25年11月の政府・友好・技術研修員代表団の来県に併せて実施

③ 会場・場所・・・県立近江富士花緑公園（野洲市）

④ 対象者および人数

湖南省訪問団50名および県民50名、計100名（予定）

⑤ 植栽樹木

- ・植栽地の植生に合った樹木を選定する
- ・候補（植物園）：フウ、コウヨウザン（ともに中国南部に自然分布）
（林内）：モミジ（県の木）、サクラ、コナラ等

期待される効果

これまでの本県と湖南省との間の技術交流の経験を活かし、本県での環境交流の体験を通じて、湖南省の森林づくりに活かすことができる。

また、森林への理解と関心を深め、自然と人が豊かに関わっていることを普及啓発するため、「湖南省友好の森」として、後世に引き継いでいくことができる。